

“時間も費用、 社会人が合格(うか)るために

前回の記事で説明したように、学習する上で過去問の攻略は非常に重要である。10年分の過去問題を繰り返し解くことができれば、合格はほぼ間違いないと言って差し支えないだろう。

しかし、10年分という科目によっては900問前後の問題を解くこととなり、膨大な学習時間を要する。時間に余裕があればいいが、施工管理技術検定は受験生の多くが仕事をしながら受験対策を行う社会人である。帰宅後や休日に受験勉強

強を行うことになるが、時間の確保は難しいだろう。

■効果的学習が不可欠

講習会は、学習時間を短縮する1つの手として挙げられる。受験対策とは合格点に達するための勉強であり、広範囲を網羅するための学習は時間の無駄だということでは再三お伝えしてきた。費用はかかるが合格点の獲得を目的とし、出題の可能性が高い部分と試験直前の学習方法を提供するのが講習会である。

最小の努力で合格へ！
施工管理技士への道⑤

講習会(例: C I C日本建設情報センター)・独学比較一覧

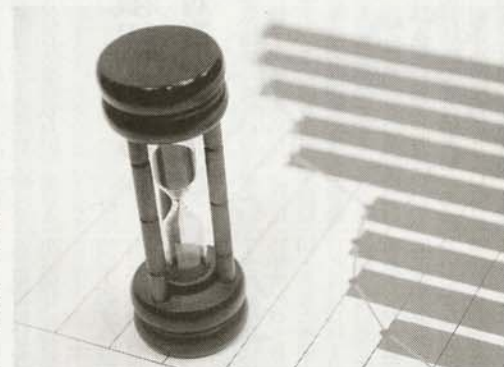
	費用	時間	学習効果
講習会	受講料(一定額) テキスト代込み	通学:決まったスケジュールで参加するので自己管理が苦手な人にオススメ 通信:自由(自己管理ができる人向け)	ポイントを絞った学習 (学習効果高)
独学	市販の教材購入費用など 購入するほど費用がかかる どれを選べばいいかわからない	自由(自己管理ができる人向け)	個人差あり

例として挙げるC I Cの講習会では、過去問を徹底的に分析。重要度の高い項目を優先的に扱い、過去問とテキストがリンクした講義を実践している。通常であれば別々に学習するテキストと過去問題だが、並行して解説することにより受講中に学んだ知識が試験でどのように出題されるか認識できる。その場で知識が定着し、復習時間の削減が期待できる形だ。また、試験本番までに最低限解いて

もらいたい出題頻度の高い過去問を選定し、配付している。

■プロが組んだ講習会

努力を続ければ独学でも合格は可能だ。しかし、社会人にとって時間も費用である。時間を効果的に使うための方法として、短期で合格できるようプロが組み立てた講習会に参加することも選択肢に入れてみてはいかがだろうか。



最終回となる次回は、施工管理技士試験の最終難関である実地試験について記す予定である。

2018年3月29日付 建設通信新聞 第20面(最終面)

インフラ長寿命化修繕計画の新たな視点 ④

抵抗、冗長、資源、迅速 4つの性能向上

本記事は、建設省(建設省)が発表した「インフラ長寿命化修繕計画」の新たな視点について、4つの性能向上(抵抗、冗長、資源、迅速)をテーマに解説しています。この計画は、国土強靭化の観点から、インフラのライフサイクルコストを削減し、社会全体の持続可能性を高めることを目指しています。具体的には、災害に強い構造の採用、冗長設計の推進、再生資源の活用、そして迅速な応答能力の向上が重点とされています。